

図6(実験1)心理評価の結果

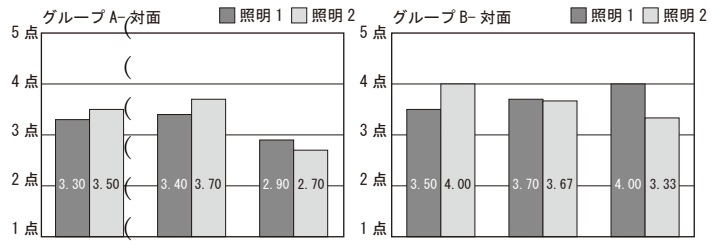


図8(実験2)心理評価の結果

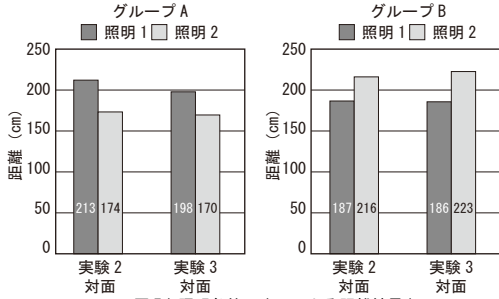


図7(照明条件の違いによる距離結果)

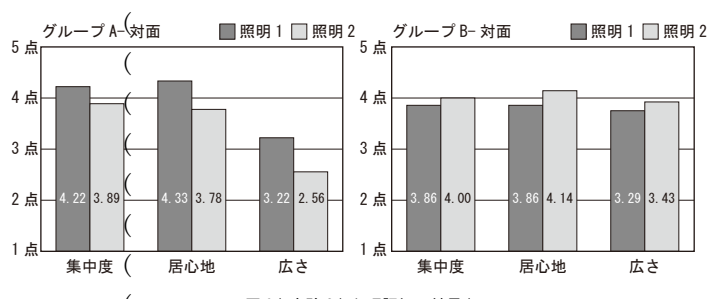


図9(実験3)心理評価の結果

3. 結果と考察

1) 実験1(「集中度」「居心地」「広さの感じ方」)について、照明条件1と2の評価結果を有意水準5%でt検定を行った結果を図6に示す。3つの評価尺度のうち広さの感じ方に有意差が認められ、照明2の場合の方が部屋を狭く感じるという結果を得た。これは照明2の場合だと周囲の照度が極端に低く、光のあたっている自分の周囲だけを空間として感じているからだと考えられる。

2) 実験2及び3(照明条件の違いによる両者の距離を測定したところ、照明1のときに対して照明2のときの方が距離を短くとる人(グループA)と長くとる人(グループB)に分かれた(図7)。実験後の自由記述欄で得たコメントを基に考察したところ、グループAでは光の照射範囲をしばることで光のあたる自分の空間を実験1と同様狭く感じたため、照明2の方が相手との距離が短くなったと考えられる。

またグループBでは、スポットライトのような照明2において個々が強調され相手の存在を意識したため、反対に照明2の方が相手との距離が長くなったと考えられる。また実験2,3それぞれ対面での「集中度」「居心地」「広さの感じ方」をグループA,Bで分けた結果を図8,9に示す。実験2ではグループA,B共に評価結果の傾向が実験1の評価結果とあまり変わりが無く、これは読書で視線が本に集中したため部屋に2人で居ても影響が少なかったからだと考えられる。実験3ではグループAとBに照明2における広さの感じ方で違いが見られ、実験3においてグループAとBを分けた要因であると考えられる。

3) 印象評価(実験2,3の対面での印象評価を照明条件及びグループA,Bで比較した平均SDプロフィールを図10に示す。実験2では照明2は照明1に比べ「閉鎖的」であり、グループAとBを比べるとグループ1の方が閉鎖的であることがわかる。また実験

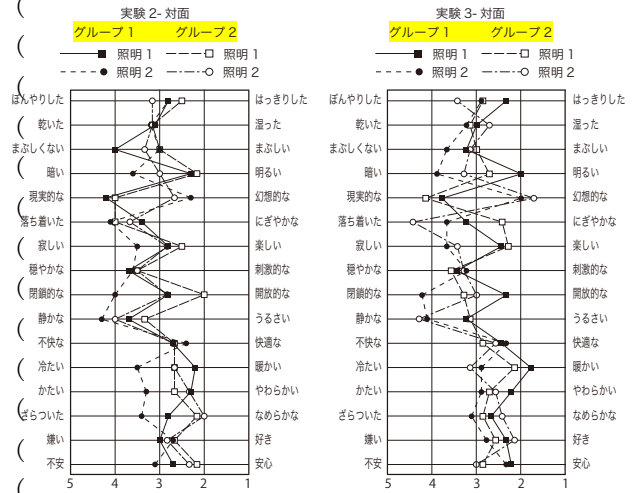


図10(実験2,3における平均SDプロフィール)

3においてもグループAでは照明2は照明1に比べ「閉鎖的」であるが、グループBでは逆に「開放感—閉鎖感」と「広さの感じ方」に関連性があることがわかった。

4. まとめ

(部屋に一人で居るときは広さの感じ方は照射範囲の狭い照明の方が狭く感じられる傾向が見られた。また、部屋に二人で居るときは両者の距離の取り方を照明によって変化させられることがわかった。しかし、照射範囲の大小で距離の取り方が二つのグループに分かれ一概には言えないことがわかった。今回の実験では使用した照明が1種類であったが、照度や色温度の違いによる心理作用の変化も考えられる。照射範囲の変化を照度や色温度の変化と兼ね合わせ、不均一な照明下で複数の人に対してどのような影響を与えるかさらに深めていくことが今後の課題である。)

参考文献

- 小林茂雄(吉崎圭介「不均一照明下での会話者の位置選択に関する研究」日本建築学会計画系論文集 No.562.83-88.2002.12
- 塩谷渉ら「異なる室内環境条件の知覚と選好行動に関する研究」空気調和・衛生工学会中部支部学術研究発表会論文集 第6号 2005.3